

今日は新年度の最初の始業式です。年度の始めにあたり、夢をもち、目標を立てることの大切さ、いかに自分自身を励まし、夢の実現をはかるかについてお話をします。

皆さんは衣笠祥雄さんを知っていますか。この人は元プロ野球選手で、広島東洋カープに在籍し、2215試合連続試合出場の世界記録をもち、2500本安打を打ち、鉄人と言われ、国民栄誉賞を受賞した人です。

私はかつて衣笠さんの講演を聞いたことがあります。なぜ彼がここまでの活躍ができたのか、皆さんにも紹介したいと思います。

彼は京都の出身で、父は在日米軍に勤めるアメリカ人、母は日本人でした。小学生のときには柔道をしていました。中学に入ったとき、柔道部がなく、野球部に入ることになりました。中学時代は自由に楽しく野球をやったそうです。キャッチャーとして、中学の最後の大会では西京極球場という大きな舞台で準優勝を勝ち取りました。

それまで彼はスコアボードのある球場で試合をしたことがなく、このような球場するにはどうしたらいいかと考え、高校野球をやればできると、それも甲子園に行きたいと、目標を定め、3年の夏の大会が終わった時に、中学の先生に、名門の平安高校に行きたいと言いました。そうすると、先生に「無理するな」と言われました。無理するなというのは、学力が足りないからという意味だったのです。先生は「お前が一生懸命野球する姿は見たが、勉強する姿は見たことがない。だから無理するな」と言いました。彼は前日に父親に高校で野球をやりたいと言っていたので、引くに引けなくなり、次の日もう一度先生にお願いに行って、「どうしても平安高校に行きたい。どうかしてください」と頼み込みました。

そうすると、先生は「ここに2枚のカードがある。一枚は家に帰ってから毎日6時間勉強する。もう一枚はあきらめる。お前にも選ぶ権利はある。どちらを取るか。」と聴きました。彼は、毎日6時間勉強するという最初のカードをとるしかありませんでした。

それから、彼は一生懸命勉強し、見事、半年後に合格通知を受け取ることができました。

高校に入学した後、野球部員200名の中で自分の体の小ささをカバーすべく、練習をしすぎて関節炎になりました。4番、キャッチャーとして甲子園に出る志を立てたけど、2年の夏以降6番でファーストのポジションを任され、練習の合間合間で自発的にキャッチャーとしての練習をし、3年の時、甲子園出場がきまり、キャッチャーをするかと言わ

れて、4番キャッチャーとして甲子園に出場することができ、希望を果たすことができました。

卒業後は広島東洋カープに入団し、2年は芽が出ませんでした。なぜだめだったかについて彼は、「コーチに言われるまま練習しました。どんな選手になりたいのか、自分の完成図がなかった。自分というものがなく、成長がなかった」と振り返っています。3年目を最後の年と覚悟し、食事、休養、練習などレベルアップのためにできることに全力を尽くしました。

少し芽が出たときに、同僚で2000試合出場、2000本安打を記録していた名選手である山内選手に「僕も将来2000試合出場し、2000本安打が打てますかね」と聞いたら、「お前じゃ無理だ」と言われ、悔しい思いをし、発奮し、それ以降「2000本安打、2000試合出場」を生涯の目標として設定し、努力をし続けました。

衣笠さんのお話を聴いて、高い目標、志を立て、最後まであきらめず、やることがいかに大切かがわかります。体が小さいとか、身体能力が低いとかの自分のマイナス点をカバーするためにどう対策を立てるか、必死に考え、日ごろからその準備をする。そして、チャンスがきたときにしっかりとつかむ。言われて努力をするのではなく、自分はこうなりたいという「自分の完成図」を描き、粘り強く努力することが夢の実現につながるのだと教えてくれます。

明日からはよいよ授業が始まります。皆さんには、衣笠さんのように高い目標、志を立て、一日一日を大切に生活してもらえればと思います。

人には誰でも越えなければならない壁があります。

勉強に部活に今やるべきことに真正面からチャレンジしていつてほしいと思います。

例えば勉強にしても、高校時代に集中して取り組めば、進学したり、就職したりした後も、今やっていることの勉強のやり方であるとか、粘り強さであるとか、集中力であるとか、自発性とかが必ずその中で生き続けます。そういうことが人生の中でずっと財産になります。

今やるべき課題を後回しにしないことです。

今、大切なことは自分自身が変わらなければならないと思うことです。

二枚のカード、あなたはどちらを選びますか？

少し背伸びであっても、なりたい自分の姿を追い求め、チャレンジを始めましょう。

今年一年があなたがたにとって飛躍の年となることを願って、始業式の式辞とします。